

支 部 通 信

日本山岳会山梨支部 第3期第6号
令和元年(2019)6月18日

定時総会・懇親会を開催

改元直前の平成最後の月にあたる4月20日(土)、午後2時から続いた長い理事会を終えた午後6時から2019(平成31)年度定期総会が、甲府駅ビル5階にある「サロン・ド・エクラン」で開催された。議決権を持たない準会員の方1名の出席と、定足数の34名を超えた正会員(27名)、委任状提出(29名)の合計56名により、総会は成立した。

深沢健三支部長の挨拶に始まり、来賓祝辞は、日本山岳・スポーツクライミング協会監事で本支部顧問を務める内藤順造氏にお願いした。議長は、支部長が務め、古屋寿隆事務局長が全体の進行と事業報告を担い、会計報告を小宮山千彰理事が担当。平成30年度事業報告・収支決算報告、平成31年度事業計画案・収支予算案が承認された。報告事項は、平成30年度事業の「山の日制定記念事業2018 第4回やまなし登山基礎講座」「支部創立70周年記念事業」等と、平成31年度事業として予定されている「本部事業」「支部山行」「支部通信」支部機関誌『甲斐山岳』11号等について説明された。

総会終了後、出席者27名による懇親会が開かれた。乾杯の発声は、慣例に基づいて、参加者の最高齢と思われた久保田明宗氏先輩にお願いしたところ、足立英二先輩から「私の方が上ではないか?」とのお発言があったが、ここは、ご愛嬌。先程までの総会とは一変、アルコールを酌み交わしながら時間が許すまで歓談を楽しみ、北原孝浩副支部長の中締めの挨拶により、左党上戸(さとうじょうご)の山仲間の集まりは、今年も余韻を残しつつ終宴となった。(青木 茂)

平成30・31(令和元)年度役員一覧

役職	氏名	担当	役職	氏名	担当
顧問	遠藤 靖彦	諮問への意見	理事	遠山 若枝	自然保護
	内藤 順造		理事	青木 茂	広報
支部長	深沢 健三	支部統括	理事	矢崎 茂男	会誌・会報
副支部長・理事長	北原 孝浩	支部長補佐	理事	大澤 純二	山行・総務・議事録
会計担当	小宮山 千彰	会計	理事	渡辺 峯雄	総務
事務局担当	古屋 寿隆	事務総括	監事	堀口 丈夫	業務監査
理事	荻原 賢司	山行		小宮山 稔	会計監査
理事	所 一路	山行			

2019年度 支部山行計画

2019年度の支部山行を次のように計画した。4月～9月の詳細は既に案内済み。楽しく盛り多い山行を重ねたい。大勢の会員のご参加を願っている。(荻原賢司)

年	月	日	山名・地域名	担当者	山行目的・その他
2019	4月	7日	高川山	萩野有基子	リニア観覧・うどん賞味
	4月	21日	茅ヶ岳	大澤純二	第38回深田祭記念登山
	5月	19日	西沢溪谷	深沢健三	第2回田部祭記念山行
	6月	16日	王岳	渡辺峯雄	御坂山塊の盟主に立つ
	7月	7日	尾白川溪谷(神蛇滝往復)	古屋寿隆	名瀑堪能のハイキング
			雨飾山	小宮山千彰	信越国境の名峰を満喫
	8月	18~20	奥穂高岳～前穂高岳	小宮山千彰	上高地から穂高2峰を踏破
	10月	20日	向山	古屋寿隆	第60回木暮祭記念登山
	11月	4日	稲山	長沢 洋	樺の森から春日沢ノ頭へ
		17日	貫ヶ岳	磯野澄也	山頂から海を見下ろす
12月	1日	湯村山～大宮山～片山	長沢 洋	甲府の裏山を歩く	

2020	1月	未定	八頭山	荻原賢司	武田八幡宮の西を巡る
	2月	未定	夏沢鉱泉～硫黄岳	小宮山千彰	厳冬八ヶ岳を体験
	3月	未定	小倉尾根～小檜山	荻原賢司	静かな尾根歩きを楽しむ

支部山行報告

【雪山講習第2回 北横岳】

山行日：平成31年2月17日（日） 地図2万5千図「蓼科」「蓼科山」

■行程：北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅－北横岳ヒュッテ－北横岳南峰－北峰－北横岳ヒュッテ－山頂駅－ロープウェイにて山麓駅

■参加者：小宮山千彰、荻原賢司、北原孝浩、池田新次郎、上田謙治、高橋みゆき
塩見麻衣子、石澤貴子、手崎喜美子、黒沼英美、河内幸子

昨年、第4回やまなし登山基礎講座を受講し、今回の雪山入門ステップアップ講習の第2回に参加することができた。当日は敷島総合文化会館に7時に集合して八ヶ岳西麓へ。初めて乗ったピラタスロープウェイからは、雪原に印された動物の足跡や木々の霧氷を俯瞰することができた。到着した坪庭は青と白の「八ヶ岳ブルー」の世界。この場所を自分の足で歩けるという期待に心躍った。12本爪アイゼンの装着や歩き方を指導していただき、ゆっくりと雪景色を堪能しながら北横岳を目指した。山頂は360度の絶景。隣の蓼科山、白く輝く南八ヶ岳、雪の少ない浅間山、それに私がまだ足跡を付けていない北アルプス・南アルプス・奥秩父の峰々…。夢見るような絶景に、しばし心を奪われた。

雪山入門で人気の北横岳、1人では心細く躊躇していたが、この感動を胸に、今後も無理をせず雪山ライフを楽しもうと誓った。（手崎喜美子）

山頂での感動的な展望を満喫した後、直下の急斜面にしっかりアイゼンをきかせながら下山した。北横岳ヒュッテの前でゆっくり昼食をとり、坪庭に向かう。時刻から判断して縞枯山はあきらめ、山頂駅近くの斜面で滑落停止訓練を中心に技術講習を行った。滑落した場合は、素早くうつ伏せになり、足を上げ、ピッケルを胸の前でしっかり持ち、脇を締め体重をピッケルにかける。何回も練習したが、一朝一夕にうまくいくはずもない。やはり「転ばない歩行技術の習得」がまず大切だと感じた。その後、スノーシューの体験やロープワークも少し教えてもらって技術講習を終えた。



初心者の私は山岳会の皆さんに教えていただけることが心強く、これから雪山にチャレンジしてみようと思った。冬の山の日を振り返って、雪山の魅力が倍増したことを実感している。（石澤貴子）

【雪山講習第3回 根石岳・硫黄岳】

山行日平成31年3月23日（土）・24日（日） 地図：2万5千図「八ヶ岳西部」

■行程：夏沢鉱泉－オーレン小屋－箕冠山－根石山荘－根石岳－根石山荘（泊）－根石山荘－夏沢峠－硫黄岳－夏沢峠－オーレン小屋－夏沢鉱泉

■参加者：小宮山千彰、大澤純二、大澤さな枝、高橋みゆき

雪山講習会の3回目は、八ヶ岳の強風を体験するというテーマで、夏沢鉱泉から根石山荘－硫黄岳の1泊山行である。私は夏の八ヶ岳も知らない初心者、見たことも聞いたこともない雪山、体感温度マイナス30度の世界…。自分に登れるのだろうか？と不安は募ったが、白い雪に覆われた山はとても静かで美しく、雪をアイゼンで踏みしめて登る感触は実に心地よいという情報を得て参加した。

1日目、オーレン小屋を過ぎ箕冠山へ。ここからいよいよ強風の名所、根石小屋のコルである。緊張しながら前進する。森が切れて、突如現れたのは茶色の尾根。ほうきで掃いたように雪が消えている。風が強すぎて、雪が吹き飛ばされるのだという。一步踏み出すと、強風がうなり声をあげている。ザックを小屋にデポしてさらに根石岳の山頂を目指す。右手の指が曲がらない。ゴーグルの汗が一瞬で凍った。山頂からは双耳峰の天狗岳が目の前に。なんと優美な稜線だろう。八ヶ岳の仲間の山々が、名だたるアルプスの山々が、そして諏訪盆地の湖が四囲に展開する。さらに刻々と変わる雲の流れ。言葉を忘れて、ただ立ちすくんだ。

翌朝、根石山荘前で気温マイナス15度、風速15m。前日より風が強く一面真っ白。無事に硫黄岳に登れるのだろうか？ 夏沢峠からはピッケルの出番だ。樹林を抜ける。強風を覚悟していたが、少し弱まったようだ。ガスで先が見えないので、足元だけに集中する。山頂はどこだろう？ ぼんやりとケ

ルンが見えてくる。次のケルンを道しるべに登る。すれ違った登山者のまつげが凍りついている。

ついに山頂に到着。登りきれた安堵感と、感謝の気持ちでいっぱいになる。突然ガスが晴れて、日が差し込んだ。まさかの青空。スクリーンの幕が開くがごとく、まもなく目の前に爆裂火口が現れた。この火口から、どれほどのエネルギーが放出されたのだろう。大自然のドラマに心が奪われる。

登路を下る。先ほどと同じ道とは思えない大パノラマが広がっていた。夏沢峠に帰って振り返れば、硫黄岳がすぐそこに、まるでヒュッテの裏山のような顔をして我々を見送ってくれていた。飲もうとしたポカリスエットが氷になっていて、それが極寒の山を登ってきたことの証だった。(高橋みゆき)

【高川山】 山行日：平成31年4月7日（日） 地図：2万5千図「大月・都留」

■行程：初狩駅－自徳治－男坂－高川山山頂－うどん店ほたる－道の駅つる

■参加者：萩野有基子、萩原賢司、大澤純二、山村正人、末木佐登子、白田昌美、大嶽ひろ美、名取邦子、相川修、福田直樹

高川山は山梨百名山の一つであり、中央線初狩駅から初心者でも登れる手軽さ、また秀麗富嶽十二景、360度の展望ありと知り、前々から期待していた山だ。9時に初狩駅に集合し、登山口へ向けて出発。平坦部や急勾配の登りを繰り返していくうちに、辺りの風景を楽しむ余裕も生まれる。隣の小山は石切り場で、山には不釣り合いな派手な色の掘削機が林間に見える。男坂を上り終え、11時20分、山頂に立った。確かに360度の展望台なのだが、期待が大きかった富士山は白く霞むベールの中にあっ

た。20分の休憩後、禾生駅・田野倉駅方面の下山路に進む。暫くして大月方面との道を分け、古宿コースへと下る。登りでも何度か出会った叡山葎はじめ数種のスミレの花、十二単、一人静、雉筵のような黄色い花、アブラチャンの花が、幾度となく私達を引き留めた。枯れた沢添いの道は、冬の老人のような趣で、傍らに咲くみやびな花の名に似合う風情は観られないが、沢にふたたび水が戻り若葉が香る頃、きつと趣のある下山路に変わるのだろう。ほどなく道が広くなり林道に出、うどん店「ほたる」へ向かう。店名は、周辺にホテルが生息していることに由来するという。ビールを味わいながら、そんな自然が至る所にあった子供の頃を懐かしんだ。



互いの気持ちが解け合う仲間と、山の空気の中に溶け込んで過ごす時間は、半枯れ人生を新しい息吹の輝きへと導いてくれる新緑のよう。言い尽くせぬ仲間からの、山からの贈り物を享受した山行きに感謝している。(大嶽ひろ美)

【茅ヶ岳】 山行日：平成31年4月21日（日） 地図：2万5千図「茅ヶ岳」

■行程：深田記念公園－女岩－山頂－尾根道－深田記念公園

■参加者：大澤純二、萩原賢司、池田新二郎、山村正人、高野正明、相川修、大嶽ひろ美、名取邦子、福田直樹、高橋みゆき、黒沼隆雄、黒沼英美

今年で38回目を迎える「深田祭」の記念登山に参加した。県内外から総勢200人余りの参加者とともに、深田久弥氏を偲びつつ茅ヶ岳に登ることが目的である。

この山は、深田久弥氏の終焉の地として有名あることはもとより、山頂からの八ヶ岳、南アルプス、奥秩父、反対側には遠く富士山までのぞめる大パノラマの山として多くの登山者が訪れる。



春がすみの下、その展望が望めるかやや心配しながらの出発となった。ゆるやかな雑木林の中を気持ちの良い新緑と、ようやく咲き始めた花を楽しみながら1時間ほど登ると水場がある。ここで小休止し、美味しい湧き水で喉を潤した。さて、ここからが本当のスタートとなる。女岩を右に巻きながら岩混じりの枯れ葉の積もる急坂を登り高度を上げていく。後ろを振り向くと、ぼんやりと富士山が顔を出し、山頂での絶景に期待が膨らむ。やがて深田久弥終焉の石碑に到着。しばし手を合わせ往時の深田に想いを馳せた。そこから最後の岩場を登りきると、期待どおりの大展望が広がっていた。

下山し豚汁のサービスに舌鼓を打った後、深田記念公園にて深田久弥氏の遺徳を偲ぶ深田祭が開催された。献花をはじめ、同氏が好んで唄ったと言われる「月の砂漠」を献歌するなど、和やかな雰囲気であった。「百の頂に百の喜びあり」の言葉が心に沁みたまるときだった。(福田直樹)

トピックス

☆第5回やまなし登山基礎講座

5回目を迎える「やまなし登山基礎講座」。今回も山梨学院生涯学習センターの協力を得て開催する。昨年度の受講者の要望等を踏まえて、今回は実際の登山に直接役立つ内容を重視し、座学の中身を精選。また、座学で学んだことを実践で活用するために実践登山を4回設定した。大勢の申し込みを期待するとともに、会員各位には講座運営への協力をいただきたい。（矢崎茂男）

回	日程	内 容	講 師
①	9/3(火)	A オリエンテーション	古屋 寿隆 (支部事務局長)
		B 山梨の登山史と日本山岳会	深沢 健三 (支部長)
		C 山の気象と観天望気	小宮山 千彰 (支部理事)
②	9/17(火)	A 山に入る前に(登山計画、山岳保険)	大澤 純二 (支部理事)
		B 夏山登山総合(安全登山、装備・食料、自然保護)	荻原 賢司 (支部山行委員長)
③	9/24(火)	A ロープワークの基本	古屋 寿隆 (支部事務局長)
		B 地図の読み方	所 一路 (支部理事)
④	9/29(日)	総合実践登山1 <瑞牆山>	渡辺 峯雄 (支部理事)
⑤	10/1(火)	A 山梨の山岳遭難の現状と対策	山梨県警察山岳警備安全対策隊
		B ケガ、病気などの応急処置	末木佐登子 (支部会員・看護師)
⑥	10/13(日)	地図の読み方・セルフレスキュー実践登山2 <茅ヶ岳>	古屋 寿隆 (支部事務局長)
⑦	10/26(土) ~27(日)	総合実践登山3 (編笠山~権現岳、青年小屋泊)	小宮山 千彰 (支部理事)
⑧	11/10(日)	総合実践登山4 (地図の読み方等復習) <八人山>	荻原 賢司 (支部山行委員長)

※座学は、山梨学院生涯学習センター講義室(クリスタルタワー館)

☆第60回木暮祭

毎年10月に開催している木暮祭が60回を迎える。10月19日(土)に交流会、20日(日)に碑前祭と記念登山を行うことを予定している。折しも、碑が建つ増富金山を含む「甲武信」ユネスコエコパークが誕生する見込み(6月12日現在)。木暮理太郎翁とともに、奥秩父の魅力や価値が世界に認められたことを喜び合いたいものである。多くの会員に参加していただきたい。（矢崎茂男）

☆「甲斐百山」発行遅延のお詫び

『甲斐山岳』11号は、支部創立70周年記念号として編集し、「甲斐百山」(「山梨百名山」以外の秀峰百山)を特集する予定で準備を進めてきた。しかし、原稿が思うように集まらず、編集作業は難航している。現在第2校を行っており、これが終了した後、担当会員に地図作成を依頼。第3校を経て、『甲斐山岳』とは別に発行することになった。10月の発行を目指し力を尽くす所存である。

当初は、2019年度の定時総会での配布を目指した。特別会費を徴収し、さらに寄付金までいただいたものの、発行が大幅に遅れていることを深くお詫びする。（深沢健三・矢崎茂男）

理事会報告

- 4月10日 臨時理事会 2019やまなし登山基礎講座の開催内容について議論した。
- 4月20日 理事会 登山基礎講座開催内容の最終案をまとめた。定時総会議題(案)が承認された。『甲斐百山』地図作成担当者を決めた。
- 5月14日 理事会 支部山行の実施形態について議論した。
- 5月23日 臨時編集会議 『甲斐山岳』11号のうち特集「甲斐百山」の編集作業が遅れているため、例年通りの内容の『甲斐山岳』11号を6月末に発行し、特集「甲斐百山」は『甲斐山岳』11号別冊として後日発行することとした。
- 6月12日 理事会 6~12月支部山行計画が承認された。（大澤純二）

編集後記

「支部通信」第3期第6号をお届けします。今号から印刷方法を変えたため読みやすい紙面になりました。ただし経費増額に伴い頁数が限られます。ご了承ください。各種原稿、随時ご送付ください。

住所:408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田502 TEL:090-7734-2788

Eメール:yazaki-s@taupe.plala.or.jp

広報担当 矢崎茂男